10/30 FRI

秋の味覚のおいもさん

なかはま保育所

秋の味覚の『おいも』。子どもたちが保育所の裏にある畑で、おいも掘りを体験しました。手を真っ黒にしながら、子どもたちは夢中になって土を掘り起こします。大きなおいもや小さなおいもが、たくさん取れました。

翌週、子どもたちは、用意されたおいもを新聞紙とアルミホイルでくるんでお手伝い。先生がおいしく焼き上げたホクホクのおいもを夢中で頬張ります。

みんなで掘ったおいもは、マッシュポテトなどにしておいしくいただきました。

[1]夢中においもを探しています。[2]たくさんおいもが取れました。[3]手が真っ黒くろすけに。[4]一緒に食べるとおいしいね。ホクホクのおいもと笑顔。

11/4 WED

11/8 SUN

紅葉の中の音楽祭

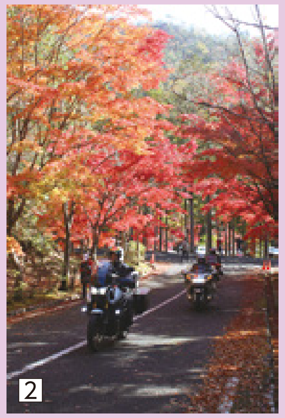
三倉岳県立自然公園・三倉岳休憩所

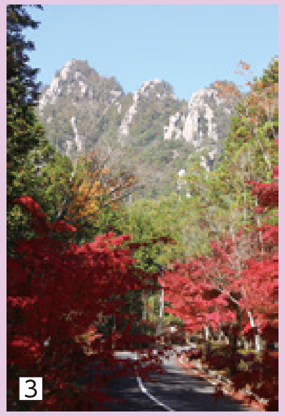
快晴に恵まれ、紅葉狩りに訪れる人でにぎわう三倉岳の麓。13回目となる音楽祭『マチュピチュ・エン・ハポン2020』が開催されました。北は北海道、南は四国、九州から集まった13組の南米の民俗音楽のグループが出演。アンデスの風景が思い浮かぶような響きが、心地よく会場を包みます。

毎年春に開催していた音楽祭ですが、新型コロナウイルスの影響を受けて秋に延期。心待ちにしていたファンが、演奏に耳を傾けました。

東京の大学生を中心にしたグループ(写真[4])のメンバーの一人は、「コロナのため、人前で演奏するのは久しぶり。今年は音楽修行でボリビアに行く予定でしたが、かないませんでした」と残念そうな面持ち。それでも真っ赤に色づいた紅葉の中で演奏ができ、満足げでした。

[1]今が盛りと燃えるような紅葉。和木町から訪れた小倉崇裕さん親子。





[2]紅葉のトンネルをくぐるライダーたち。[3]三倉岳も悠然と紅葉を見下ろしているよう。

のついているものは、これ以外の写真も大竹市公式フェイスブックで見ることができます。

El sonido los Andes Machu Picchu en Japón

[4]頂上まで届けるように奏でる、東大生、慶大生らのグループ。[5]福岡から参加。マチュピチュの写真を背景にして、ケーナの音色を聴かせます。

[6]高校3年のバイオリン奏者SUZUMA。「子どものころから来ていました。三倉岳を見ながら演奏するのは贅沢な気分です。来年はニューヨークに音楽留学します」[7]軽やかなステップを踏みながらのパフォーマンス。[8]司会進行も務めながらサンポーニャも演奏。

11/8 SUN

[9]フォルクローレで使われる小型のギター、チャランゴ。[10]軽快な演奏に、会場から拍手が湧き起ります。[11]アコーディオンでアルプホルンの伴奏を務めた野口美紀さん(写真左)「10年ほど前にマチュピチュに行きました。三倉岳は雰囲気が似てますね」お気に入りの小物は見つかりましたか。

[12]ニットの帽子を被ってみます。似合ってる？[13]アンデスの耳あて帽子チューヨ。[14]低音が魅力。長さ約3mのアルプホルンが響きます。左から広中龍樹さん(油見)丸子有美さん(広島市)森藤みこさん(広島市)原田禎彦さん(府中町)

カメラスケッチ